

週日の説教

金 大烈 神父 2011年6月23日(木)

《言葉だけで、実践がなければ 一知っていることが、そのように生きていることではない》

今日の福音(マタイ 7:21 - 29)では、いろいろな言葉が話されましたが、私の目に留まったのは、この箇所です。「主よ、主よ、わたしたちは御名によって預言し、御名によって悪霊を追い出し、御名によって奇跡をいろいろ行ったではありませんか」

このような言葉は、“自分なりに信仰の生活をきちんとしてきた”と思う人だけが話せる内容でしょう。“ミサに与りませんでした。教会の奉仕活動にも参加しませんでした。”という人が言える内容ではありません。“自分なりに、信仰の生活をきちんとしてきた”という自信を持っているから言えるのでしょう。それにもかかわらずイエス様は、「あなたたちのことは全然知らない。不法を働く者ども、わたしから離れ去れ。」とおっしゃいました。この言葉が目に入った時、これは、私におっしゃっている言葉ではないかと思いました。「自分の人生を全部捧げてあなたの道について行きます。」という決心で生きてきました。しかしイエス様は、私のような司祭、修道者、あるいは信仰深いと言われる信者の方々に、本当に冷静に、厳しく、警告されていらっしゃるのではないかと思いました。“言葉だけ、形だけで、行いがなければ、実践がなければ、それは天国に入れる保証ではない”とはっきりおっしゃっている言葉なのです。このような御言葉に接する時、信者である私たちは、もっとへりくだる心を持って、本当にそのみ旨にかなう振る舞いを見せているか、全力を尽くしているか、それを振り返ってみるべきではないかと思います。

私たちは、どのような生き方がふさわしくて、美しく、正しいか分かっています。しかし、今日の福音で考えなければならないのは、“知っていることが、そのように生きていることではない”ということです。結局、生き方の中に実践がなければ、知っていても何の役にも立ちません。むしろ、知らなければ、「知らなかったから、できませんでした。」と言えますが、知っていたのに出来なければ、そのような言い訳はできません。

そういう意味で、今日は福音を読んだ時、「私の生き方はどうなのか」と思い、あまり嬉しくない気持ちでした。

皆様にとっても、やり直す気持ちになるきっかけになればよいと思います。

ありがとうございました。